



「この本メチャメチャ売れています！」ってホント？

評者 増井伸高 札幌東徳洲会病院救急センター 副センター長

何を指標に選ぶか？

2020年代以降は、救急のマニュアル本が非常に充実しています。研修医は、数十冊以上のなかからどれを買うか迷ってしまうでしょう。上級医だって、オススメ本を知る必要があります。数あるマニュアル本から、みなさんは何を指標に選んでいますか？

「先輩研修医に聞く」「書店で読み比べる」「Amazonの★の数」…。いずれも悪くありません。しかし、私のオススメは、「増刷数の多いものを選ぶ」という戦略です。

新しい医学書を何部刷るかは、出版社が売り上げ予想部数から「初版刷数〇千部」と数を決めます。その予測以上に売れると「増刷」です。ドラマで黒木華さんが「重版出来！」と言っていたヤツですね。一方で、残念ながら重版出来されず、書店で1冊だけ棚ざしされ、残りは出版社に返品される書籍もけっこうあります。

売れに売れて増刷を第2刷・第3刷と繰り返すと、書籍の冒頭や末尾に記載されます。お手元の医学書をチェックしてみましょう。その本がすでに有名で人気のある医学書なら、増刷数も多いはず。そう、「増刷数」は何より信頼のおける良書の指標なのです。では、本書の増刷数は…第1版「第7刷」、第2版「第8刷」!! これは超オススメの書籍と言えます。

なぜ売れているのか？

本書を開くと、売れている理由がすぐにわかります。それは、救急現場で必要とするすべての問題を網羅しているからです。本書の第2～4部の章立ては、計44項目の症候から成ります。章立てが、診断名ではなく「症候名」なのがポイントです。たとえば、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) という章立てはありませんが、ある症候ではいつ COVID-19 を疑い、何を処方するかは必要十分に記載されています。救急患者さんは診断名でなく症候で来院するため、症候の解決こそ「問題解決型」なのです。

また、全章を通して図・表・チャートが多いのも、売れている理由でしょう。自分で本をつくるとわかるのですが、作図は著者も出版社も非常に骨が折れる作業です。私などは過去の執筆で作図作業に発狂し、文字の羅列に逃げようとしたことが何度もありました。その点で本書は、読者目線の図説が目白押し。著者の田中和豊先生と医学書院が骨を折って救急現場目線の書籍化に挑戦した熱意が、ひしひしと伝わってきます。

売れている本が「正義」です。第1版第7刷・第2版第8刷に続き、今回の第3版も数年後には増刷を重ね、多くの救急外来で活躍しているに違いありません。



問題解決型 救急初期診療 第3版

田中和豊＝著

定価：5,280 円 (本体 4,800 円 + 税 10%)
B6 変型・564 頁／医学書院／2022
[ISBN978-4-260-04732-6]